

-加藤謙一顕彰事業について-

夏休みが明けてキャンパスへ帰って来た学生の皆さんは、附属図書館の玄関右手の「なかよし」と書かれた記念碑に気づいたことと思います。猛暑も一段落した9月7日、附属図書館が中心となり、故加藤謙一氏の記念文庫の開設、完成した記念碑の除幕式、資料展など顕彰事業を学内外の関係者、同氏のご遺族の出席をいただき行いました。加藤氏は、本学の前身の青森県師範学校の卒業生で戦前から戦後にかけて「少年倶楽部」「野球少年」「漫画少年」など少年雑誌の編集に一生を捧げ、手塚治虫、寺田ヒロオ、藤子不二夫、石ノ森章太郎、松本零士など戦後を代表する名だたる漫画家を育て、今日の漫画文化の礎を築き名編集長と謳われた人物です。

雑誌の編集者は、本作りの裏方であり、ご存知ない方も多くと思いますので、まず、同氏の業績を簡単に紹介します。

加藤謙一氏は、1896年（明治29）弘前市に生まれました。青森県立弘前中学校（現県立弘前高等学校）を経て1916年（大正5）青森県師範学校（現弘前大学教育学部）に入学。1917年（大正6）に同校を卒業し、市内の富田尋常小学校（現弘前市立大成小学校）に奉職しました。在職中に作った学級誌「なかよし」を生徒たちが喜びのを見て「この喜びを全国の子どもたちに広めたい」との思いが強まり、職を辞して上京。1921年（大正10）に講談社に入社、入社後わずか3か月で『少年倶楽部』の編集長に抜擢され、次々と新機軸を出して『少年倶楽部』の発行部数を延ばしました。新聞小説の雄で弘前出身の佐藤紅緑に依頼し、「あゝ玉杯に花うけて」「少年讃歌」など7編の大作を世に出しました。また、吉川英治、大佛次郎などの小説や田河水泡の漫画「のらくろ」など各方面の作家を動員し「少年倶楽部」を45万部発行の人気雑誌に発展させました。今では一般的な雑誌の付録も同氏が読者の心をつかむために考え出したアイデアです。

1945年（昭和20）、講談社取締役役に就任しましたが、太平洋戦争の終結に伴い退社。1948年（昭和23）、自ら学童社を興し、雑誌『漫画少年』を創刊しました。同誌において、新人の発掘と育成に力を入れ、前述の日本を代表する多くの漫画家たちを世に送り出しました。これら漫画家達のエピソードは、「トキワ荘青春日記」（寺田ヒロオ著）、「トキワ荘の青春」（石ノ森章太郎著）をご覧ください。

『漫画少年』の終刊後、講談社に顧問として復帰し、1975年（昭和50）、病気のため79歳で亡くなりました。

続いて主な行事のあらましについて記述します。

「加藤謙一文庫」開設式

「加藤謙一文庫」は、ご子息の加藤丈夫氏からご寄贈いただいた蔵書を基に、附属図書館で収集した今では貴重本となり古書店でも入手が困難な「少年倶楽部」「野球少年」「漫画少年」の原本又は復刻版、



附属図書館2階加藤謙一文庫

手塚治虫、寺田ヒロオ、石ノ森章太郎など彼が育てた著名な漫画家の関連資料、及び2009年に特別展「加藤謙一伝」を開催した「文京ふるさと歴史館」の学芸員加藤元信氏からご寄贈いただいた「野球少年」「漫画少年」の原本6冊などからなり、附属図書館2階に開設しました。

9月7日の開設式では、遠藤学長が加藤氏の偉業を紹介したあと、遠藤学長、加藤丈夫氏（加藤謙一氏の四男）、長谷川附属図書館長によるテープカットが行われ、蔵書と資料を寄贈された加藤丈夫氏へ遠藤学長から感謝状が贈呈されました。

文庫に配架した「少年倶楽部」「野球少年」「漫画少年」は、1920年代から1950年代にかけての少年雑誌の変遷を俯瞰する上でも貴重な資料です。また、前述の著名な漫画家のデビュー当時の作品を手にとって見ることができ、タイムスリップして彼らの将来を予感させるエスプリを感じます。



附属図書館玄関にある記念碑

記念碑除幕式

文庫の開設の後、附属図書館玄関において完成した記念碑の除幕式が行われました。

遠藤学長、加藤丈夫氏による記念碑除幕に続いて長谷川附属図書館長から記念碑建立に至る経緯、碑文についての紹介、遠藤学長、渡辺財務・施設担当理事、長谷川附属図書館長、加藤家ご親族による記念植樹が行われました。

来賓の加藤家を代表して加藤丈夫氏からは、「弘前大学に記念碑が建ち父も喜んでいることと思います」と謝辞が述べられました。

記念碑には、加藤氏が編集者を志す原点となった富田小学校の学級誌「なかよし」の文字と「子どもは国の宝だ。子どもたちを明るく健やかに育てる仕事に身を捧げたい」という終生揺らぐことがなかった加藤氏の信念が碑文として刻まれています。

「加藤謙一資料展」内覧会

「加藤謙一文庫」開設と記念碑建立を記念して「加藤謙一資料展」を創立50周年記念会館岩木ホールにおいて開催しました。資料展では、加藤氏に関わる資料15点、関係出版物120点、パネル48枚を展示し、同氏の業績と一生を紹介しました。

9月7日午後からのオープンを前に、「加藤謙一文庫」開設式と記念碑除幕式の出席者による内覧会を開催しました。内覧会では、長谷川館長の主催者あいさつに続いてフリーアナウンサーの奥村潮氏と加藤丈夫氏によるギャラリートークが行われ、展示資料の一点一点にまつわるエピソードが丈夫氏から披露され臨場感に満ちた内覧会となりました。



加藤謙一資料展にて
(右から遠藤学長、長谷川附属図書館長、
加藤丈夫氏、三村青森県知事)

おわりに

大正から昭和にかけての激動の中で、青雲の志を持ち弘前から上京。波瀾万丈の人生を乗り越え昭和の名編集長と謳われた偉人を支えたのは、家族の絆と「じょっぱり」精神ではないかと思えます。読者の皆様には、今回設置した文庫と記念碑からそれを感じ取っていただければ幸いです。

末筆ながら、本事業の実施に当たりご助言、ご協力いただきました学内外の多くの方々に対し厚くお礼申し上げます。

(学術情報課長 酒井量基)

「日露戦争と弘前第8師団」をテーマに 第7回学術講演会を開催

附属図書館主催の第7回学術講演会を10月16日、弘前大学創立50周年記念会館において開催しました。今年、本学のキャンパスの一部が旧陸軍弘前第八師団司令部の跡地であることから、日本近現代史・軍事史が専門の明治大学文学部の山田朗教授を講師に招き、『坂の上の雲』の時代一日露戦争と弘前第8師団と題し、同師団が日露戦争の勝利に果たした役割と明治という時代を、北の視点から多面的に解き明かすことをテーマとしました。

山田教授は、講演の中で英露対決という日露戦争時の世界情勢と日本軍の通信や、連携プレーが随所で功を奏し兵力に勝るロシア軍に勝利した経緯を専門の軍事史研究のデータを示し克明に解説されました。

また、秋山兄弟や陸羯南など司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」の登場人物の興味深いエピソードにも触れ、参加者した市民、学生など約250人は熱心に耳を傾けていました。

(学術情報課長 酒井量基)



講演する明治大学教授
山田朗氏

「弘前大学学術情報リポジトリ」の 世界ランキング入りについて

本学の機関リポジトリ（弘前大学学術情報リポジトリ）が、スペイン高等科学研究院が作成する世界リポジトリ・ランキング(Ranking Web of World Repositories Top800)（2010年7月版）において、世界第342位（国内第25位）にランクインしました。

(世界リポジトリ・ランキング URL: http://repositories.webometrics.info/top800_rep.asp)



このランキングは、Google、Yahoo等からの検索可能なページ数、リポジトリへの外部リンク数、収録コンテンツファイル数、Google Scholarを検索した場合にヒットする論文および被引用数の4つの項目により順位を決定しています。1月と7月に定期的に公開され、弘前大学は2010年1月までのTop400ランキングではランキング外でした。

1位はCiteSeerX（コンピュータ・サイエンス分野の論文の検索エンジン/文献データベース）で、日

本の機関リポジトリでは、京都大学(38位)、九州大学(88位)、早稲田大学(98位)、名古屋大学(101位)、東京大学(113位)、東北大学(121位)など国内の56機関がランクインしています。

本学は、本文ありコンテンツ数のランキングでは国立大学42位ですが、「世界リポジトリ・ランキング」では25位と順位を上げています。これは、Google Scholarを検索した場合にヒットする論文および被引用数が評価されたものと考えられます。

「弘前大学学術情報リポジトリ」は日々コンテンツ数を増やしていますが、より充実させるためには教員の皆様のご協力が必要です。教育・研究成果を発表した際にはぜひ「弘前大学学術情報リポジトリ」に登録いただきますようお願いいたします。

(資料管理グループ係長 三上豊)

外国人留学生向け図書館ガイダンスを実施

9月29日に、外国人留学生を対象とした図書館ガイダンスを、国際交流センターと協力して行いました。このガイダンスは、外国人留学生に、図書館について知ってもらい、利用してもらおうと、平成22年4月に第1回を実施しました。

2回目となる今回のガイダンスには、10月入学の協定校からの交換留学生等11カ国38名が参加しました。使用言語ごとに3回に分けて行い、国際交流センター教員と外国人留学生に通訳をしてもらいました。マルチメディアコーナーや、留学生用コーナー等の館内案内と、本の貸出・返却の仕方等について50分程度説明しました。留学生は、本の借り方等について熱心に聞いていました。



ガイダンスに参加した留学生の皆さん

(情報サービス担当 佐藤綾希子)

知の宝！古本市～リユースブックフェア～

附属図書館では、第10回弘前大学総合文化祭の期間中(平成22年10月22日～24日)、附属図書館1階職員玄関前において、「知の宝！古本市～リユース・ブックフェア～」を開催しました。



掘り出し物を求めて集う来場者

この古本市は、重複や改版により不用となった図書館資料(廃棄済資料)の再利用と附属図書館の書庫内スペースの確保を目的に平成19年から弘前大学総合文化祭期間中に実施しているものです。

会場には、多くの学生や職員、一般市民が来場し、興味ある分野の資料を次々と持ち帰っていました。今回は、附属図書館第7回学術講演会で開催したプレリユース・ブックフェアを含めて約4,000冊の資料を新しい利用者に利用していただくこととなりました。

(資料管理グループ係長 三上豊)